

〈研究ノート〉

## 音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡のカリキュラム

— 小中一貫を見通して —

鈴木慎一郎・谷口峻音・奥村理恵・田村里架・舩田和雅子

On Japanese Folk Song Curriculum with the Help of Digital Textbooks for  
Music Education:

Toward Consistency in Education from Elementary School through Junior High School

SUZUKI Shinichiro,

TANIGUCHI Takane, OKUMURA Rie, TAMURA Rika, MASUDA Wakako,

キーワード：小中一貫教育，日本の民謡，音楽デジタル教科書，カリキュラム

Key words : Consistency in Education from Elementary School through Junior High School,  
Japanese Folk Song, Digital Textbooks for Music Education, Curriculum

### はじめに

本稿の目的は、小中一貫を図った音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡のカリキュラムを構築することである。

2016（平成28）年4月から、学校教育法第1条が改正され、「義務教育学校」が新設された。文部科学省は2016（平成28）年12月に『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』を発行する<sup>1</sup>。それによると、「義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めること」が大切とされ、

学習指導要領を踏まえて執筆される教科書においても、系統的・連続性を確保するため、様々な工夫が講じられているものもあります。基本的なことではありますが、これらの工夫を十分に読み取り、活用することによって、既習事項の定着を確認・強化しながら、より多くの児童生徒に学習内容の定着を促す指導の工夫や、発展的な理解を促す指導の工夫を9年間で一貫させていくことが考えられます。また、そのような取組の前提として、小・中学校段階の教職員が互いの教科書を見て、系統性を確認したり、同じ内容でどのように扱いが違うのか等について学び合うような研修を行ったりすることも考えられます。

と学習指導要領の確認や創意工夫された教科書の活用が学習指導において推奨されている<sup>2</sup>。また、「校内ネットワーク上に指導者用「デジタル教科書」をおき、本時の学習内容に関連した下学年の教科書該当ページを見せるなど、ICTを活用して系統性や連続性を子供たちに理解させる工夫をしている学校もあります」とICTの活用を促している<sup>3</sup>。

2018（平成30）年1月には、文部科学省は『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する事例集』を発行する<sup>4</sup>。しかしながら、音楽デジタル教科書や日本の民謡を取り上げた実践は紹介されていない。

小島律子は『日本伝統音楽の授業をデザインする』（2008）を監修し、《八木節》《木曾節》

《こきりこ》《ソーラン節》を取り上げた授業事例を紹介する<sup>5</sup>。今後の課題として「幼稚園から高等学校までの日本伝統音楽教育の系統性を確立すること」と述べられている通り、カリキュラムに関してまでは言及されていない<sup>6</sup>。また、小島は大阪教育大学附属平野小学校・中学校と連携し、『義務教育9年間の和楽器合奏プログラム』（2015）を発行する<sup>7</sup>。わらべうたを出発点とし、富山県民謡の《こきりこ》も取り上げられているものの、和楽器合奏に主眼が置かれて編纂され、音楽デジタル教科書に関しては触れられていない。

日本学校音楽教育実践学会は『日本伝統音楽カリキュラムと授業実践：生成の原理による音楽の授業』（2017）を発行し、「人と地域と音楽」「音楽の仕組みと技能」「音楽と他媒体」の3つの柱に基づき、日本伝統音楽のカリキュラムを構成する<sup>8</sup>。小中学校を扱ってはいるものの、特定の教科書に基づいて作成されたカリキュラムではなく、小中一貫の視点ではなされていない。

宮崎大学教育文化学部は、2011（平成23）年度から3ヶ年、文部科学省特別経費（プロジェクト分）「小中一貫教育支援プログラムの開発と実践：小中一貫教育に関する総合的研究とそれを基盤とする新任教員養成及び現職教員研修」を受けていた<sup>9</sup>。2016（平成28）年、教育学部に名称変更し、「学校教育課程小中一貫教育コース」も置かれている<sup>10</sup>。音楽科部会の成果としては、竹井成美・菅裕らによって発表されているものの<sup>11</sup>、音楽デジタル教科書や日本の民謡に関する言及はなされていない。

国立教育政策研究所では、2014（平成26）年度・2015（平成27）年度、プロジェクト研究「初等中等教育における学校体系に関する研究」に取り組み、その成果を報告書「小中一貫の成果と課題に関する調査研究」としてまとめ、さらに『小中一貫 [事例編]』（2016）を発行する<sup>12</sup>。先導的な8事例が紹介されるものの、デジタル教科書や民謡に関する実践は取り上げられていない<sup>13</sup>。

新学習指導要領においては、民謡やICTの活用は重視されている。デジタル教科書については、可能な限り、新学習指導要領の実施に合わせて導入し、使用することができるようにすることが望ましいとされる<sup>14</sup>。では、どのようなカリキュラムが理想なのだろうか。そこで本稿では、小中一貫を図った音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡のカリキュラムを構築することを目的とする。

研究方法としては、第一に小中一貫教育に取り組んでいる文部科学省研究開発学校指定校ならびに鳥取市内の義務教育学校の現状を概観する。第二に小中一貫を図った音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡のカリキュラムを構築する。

## 1. 義務教育学校の概観

『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』では「学年段階の区切りの柔軟な設定」を推奨し、「4-3-2」とするケースが最も多いと報告される<sup>15</sup>。

2018（平成30）年度、文部科学省研究開発学校指定校として一貫教育の研究に取り組んでいるのは、表1に示した通り、福井大学教育学部附属義務教育学校、京都教育大学附属京都小中学校、広島大学附属三原学校園が挙げられる<sup>16</sup>。

表1 文部科学省研究開発学校指定校における一貫教育

	幼	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
福井大学教育学部 附属義務教育諸学校		前期課程						後期課程		
京都教育大学 附属京都小中学校		初等部			中等部			高等部		
広島大学 附属三原学校園	幼小接続期		中間期		小中接続期			義務教育完 成期		

鳥取市においては、2018（平成30）年度現在、表2に示した通り、鳥取市立湖南学園、鳥取市立福部未来学園、鳥取市立鹿野学園の3校の義務教育学校がある<sup>17</sup>。

表2 鳥取市立義務教育学校

	幼	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
鳥取市立湖南学園		初等ブロック			中等ブロック			高等ブロッ ク		
鳥取市立福部未来学園	初等ブロック		中等ブロック			高等ブロック				
鳥取市立鹿野学園		初等ブロッ ク		中等ブロック			高等ブロック			

『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』では「児童の実態を踏まえ、学級担任のよさと教科担任制のよさを兼ね備えた指導體制を構築することが必要」としながらも、「小学校高学年における教科担任制、乗り入れ指導」を推奨する<sup>18</sup>。教科担任制の導入形態としては「①特定教科における専科指導、②学級担任間の授業交換、③専科担当教員と学級担任とのTT」を挙げる<sup>19</sup>。また、実際の指導に当たる人員配置については、「①小学校の教員だけで行う、②中学校の教員からの乗り入れ指導を行う、③元々中学校籍だった教員が小学校に移籍して指導に関わる」が挙げられる<sup>20</sup>。

福井大学教育学部附属義務教育学校の音楽の授業では、5年から7年までに関して乗り入れ指導を行っている<sup>21</sup>。京都教育大学附属京都小中学校の授業では、5年から教科担任制を取り入れている<sup>22</sup>。

鳥取市立湖南学園の音楽の授業では、1年から教科担任による指導が行われ、4年から6年までが相互乗り入れ指導を行い、4年、5年に関してはTTでもなされている<sup>23</sup>。鳥取市立福部未来学園の音楽の授業では、1年から教科担任による指導が行われ、4年と6年ではTTでもなされている<sup>24</sup>。

ところで、鳥取大学附属小・中学校は、文部科学省研究開発指定校として、1999（平成11）年度から小中連携の実践研究を実施していた<sup>25</sup>。その当時は小学校第1学年から第3学年までを「Ⅰ期」、第4学年・第5学年を「Ⅱ期」、第6学年と中学校を「Ⅲ期」とし、「音楽科年間計画」が作成されていた<sup>26</sup>。しかしながら、鳥取大学附属中学校では、公立小学校から進学してくる生徒も受け入れており、また、本研究が教科書を対象としているため、学年段階の区切りの柔軟な設定は設けず、学習指導要領にも対応する「2-2-2-3」の区切りでカリキュラム

を構築する。

## 2. 音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡のカリキュラム構築

カリキュラム開発の様式には、「研究・開発・普及モデル (research-development-diffusion model)」と「実践・批評・開発モデル (practice-critique-development model)」がある。「研究・開発・普及モデル」とは、中央の機関において専門の研究者や行政官が中心になってプログラムを開発し、そのプログラムの有効性を評価して再び中央の機関で修正を施す方式である<sup>27</sup>。一方、「実践・批評・開発モデル」とは、教室を基礎とし学びを創造する過程でカリキュラムを批評し教師の力量の開発を行う方式である<sup>28</sup>。佐藤学は「研究・開発・普及モデル」について批判し、その理由として第一に教師の役割や能力が無視されている点、第二に教室の実践の多様性や創造性を無視している点、第三に教育実践を画一化する傾向をもっている点を挙げる<sup>29</sup>。本研究では、日本の民謡に造詣の浅い教員であっても音楽デジタル教科書を活用して授業ができるようにすることを目的としているため、ここではあえて「研究・開発・普及モデル」に基づきカリキュラム開発を行う。

ところで、新学習指導要領では「カリキュラム・マネジメントの充実」が求められている。具体的には次の三つの側面から整理して示されている<sup>30</sup>。

- ・児童（生徒）や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ・教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

田村学は、「カリキュラム・デザイン」に関して、次の3つの階層を挙げる<sup>31</sup>。

- ①教育目標を踏まえ、つなぐグランド・デザイン（全体計画）
- ②全単元を俯瞰し、関連付ける単元配列表
- ③学びの文脈を大切に単元計画

音楽では「単元」ではなく、「題材」を使用するため、それに置き換え、本稿では「②全題材を俯瞰し、関連付ける題材配列表」までを作成する。

小中一貫教育におけるカリキュラム・マネジメントに関しては、加藤明が、以下の2点が重要であると指摘する<sup>32</sup>。

- ①どのような学びと育ちの姿をめざすのか。子供の実態を踏まえて、各学校が具体的で明確な目標を掲げること
- ②目標実現と成果の確かめ、連続性の保持のための共通の方策、方法を有していること

また、「これまでの学校教育のカリキュラムは、内容の系統とその順次性を構成原理として作成されており、そこにおいて単元の内容に即して導き出された能力は、必ずしも次の単元の内容から導き出される能力とはつながっていない」と問題視する<sup>33</sup>。それを改善するために「実現を

めざす能力の見通しを立て、内容の系統との統合を単元構成によって図りながら実践を展開する。そしてその成果を確かめ、作業単元から資料単元を作成しながらカリキュラム化をめざす方法を提案している<sup>34</sup>。

(1) 小中一貫を図った日本の民謡のカリキュラム

表3は、小中一貫を図った日本の民謡のカリキュラムである。日本の民謡だけではなく、日本の音楽全般を含めて一覧にし、日本の民謡に関する箇所は、ゴシック体で表記した。また、小学校、中学校、特別支援学校の教科書に共通して掲載されている民謡については、下線を引いた。小学校低学年では、わらべうたに親しみ、第4学年で日本の民謡を取り上げる。中学校では、第1学年で日本の民謡を学習する。

音楽デジタル教科書を使用する内容に関しては、「デジタル」の欄に「☆」を付けた。なお、鳥取大学附属小・中学校で使用されている、教育芸術社の教科書に基づき作成した。

表3 小中一貫を図った日本の民謡のカリキュラム

学年	題材名	内容	デジタル
小1	うたでなかよしになろう にほんのうたをたのしもう	《ひらいたひらいた》 《さんちゃんが》 《おおなみなみ》 《おちやらかほい》	
2	うたでともだちのわをひろげよう ひょうしをかんじてリズムをうとう 日本のうたを楽しもう	《かくれんぼ》 おまつりの音楽 《ずいずいずっころばし》 《あんたがたどこさ》 《なべなべそこぬけ》 ばんそうあそび(音楽づくり)	
3	拍のながれにのってリズムをかんじ とろう 日本の音楽に親しもう	《うさぎ》  《神田囃子》 《花輪ばやし》 《小倉祇園太鼓》 ラドレの音でせんりつづくり	
4	日本の音楽に親しもう   かんしょう資料	《ソーラン節》 《南部牛追い歌》 《こきりこ》 ミソラドレの音でせんりつづくり 《さくらさくら》 郷土の民謡 《ソーラン節》 《江差追分》 《津軽じょんがら節》 《南部牛追い歌》 《斎太郎節》 《秋田おばこ》 《花笠音頭》 《会津磐梯山》 《磯節》 《八木節》 《大漁節》 《箱根馬子歌》	☆ ☆ ☆

		<p>《縁故節》  <u>《佐渡おけさ》</u>  <u>《こきりこ》</u>  《三国節》  《小諸馬子歌》  《郡上節》  《ちゃっきり節》  《岡崎五万石》  《伊勢音頭》  《江州音頭》  《河内音頭》  《吉野川筏歌》  《デカンショ節》  <u>《串本節》</u>  《貝がら節》  《安来節》  《田植歌》  《男なら》  《阿波よしこの》  《金毘羅船々》  <u>《よさこい節》</u>  <u>《黒田節》</u>  <u>《五木の子守歌》</u>  《鶴崎踊》  《刈り干し切り歌》  《鹿児島おはら節》  《谷茶前》</p>	
5	日本と世界の音楽に親しもう	《春の海》 《子もり歌》 音階の音で旋律づくり	
6	<p>ことに親しもう  日本と世界の音楽に親しもう</p> 鑑賞資料	《さくらさくら》 《越天楽今様》 雅楽「越天楽」から 日本の楽器	
中 1	<p>日本の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう。一箏曲一  日本の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう。一尺八曲一  人々の暮らしから生まれた日本の民謡に親しみ、そのよさを味わおう。</p>	<p>《六段の調》  《巢鶴鈴慕》  日本の民謡  <u>《ソーラン節》</u>  《江差追分》  《津軽じょんがら節》  <u>《南部牛追い歌》</u>  <u>《斎太郎節》</u>  《秋田おばこ》  <u>《花笠音頭》</u>  <u>《会津磐梯山》</u>  《磯節》  《日光和楽踊り》  《草津節》  《秩父音頭》  《大漁節》  《江戸の鳶木遣》  《箱根馬子歌》  《縁故節》</p>	☆

	<p>声や音楽の特徴を感じ取って歌おう。 日本の音階を使って旋律をつくろう。</p>	<p>《佐渡おけさ》 《こきりこ》 《山中節》 《三国節》 《小諸馬子歌》 《郡上節》 《ちゃっきり節》 《岡崎五万石》 《伊勢音頭》 《江州音頭》 《福知山音頭》 《河内音頭》 《吉野川筏歌》 《デカンショ節》 《串本節》 《貝がら節》 《安来節》 《下津井節》 《音戸の舟歌》 《男なら》 《祖谷の粉ひき歌》 《金毘羅船々》 《宇和島さんさ》 《よさこい節》 《黒田節》 《岳の新太郎さん》 《長崎ぶらぶら節》 《五木の子守歌》 《鶴崎踊》 《刈り干し切り歌》 《鹿児島おはら節》 《谷茶前》 《ソーラン節》</p>	<p>☆</p>
<p>2・3上</p>	<p>日本の伝統芸能に親しみ、そのよさを味わおう。—歌舞伎— 声や音楽の特徴を感じ取って唄おう。 日本の伝統芸能に親しみ、そのよさを味わおう。—文楽（人形浄瑠璃） 人々の暮らしの中で受け継がれてきた日本の郷土芸能に親しみ、そのよさを味わおう。</p>	<p>「勸進帳」から 長唄「勸進帳」から 「新版歌祭文」“野崎村の段”から 日本の郷土芸能 受け継ごう！郷土の芸能</p>	
<p>2・3下</p>	<p>日本の伝統芸能に親しみ、そのよさを味わおう。—雅楽— 日本の伝統芸能に親しみ、そのよさを味わおう。—能— 声や音楽の特徴を感じ取って謡おう。</p>	<p>平調「越天楽」—管絃— 「羽衣」から 能「羽衣」から</p>	

<p>中 器 楽</p>	<p>箏を演奏しよう。  三味線を演奏しよう。 太鼓（長胴太鼓・縮太鼓）を演奏しよう。 篠笛を演奏しよう。  尺八を演奏しよう。</p>	<p>《虫づくし》 《姫松》 《さくらさくら》 《さくらさくら》  《たこたこあがれ》 《ほたるこい》 《夕やけこやけ》</p>	
----------------------	--	--	--

これまでに筆者の鈴木は附属学校教員との共同研究により、音楽デジタル教科書の操作方法も明記した日本の民謡のモデル指導案を開発した<sup>35</sup>。本稿では、さらに小中一貫を緊密にし、同一教材による実践を提案する。具体的には北海道民謡《ソーラン節》とする。教育芸術社では、小学校では第4学年で鑑賞教材，中学校では第1学年では歌唱教材として取り扱われている。今回，小学校においても歌唱教材としても取り扱う。教育出版では第5学年で歌唱教材として取り上げられているため，無理はないと考えられる。

音楽デジタル教科書に関しては，小学校の《ソーラン節》の学習においても，中学校の音楽デジタル教科書も活用し，歌唱としても取り上げたい。中学校の音楽デジタル教科書を活用する理由としては，小学校にはない，模範演奏の動画が掲載されているからである。男声編と女声編と2種類あるが，小学生の声域に近い，女声編を使用して実践を進める（図1）。

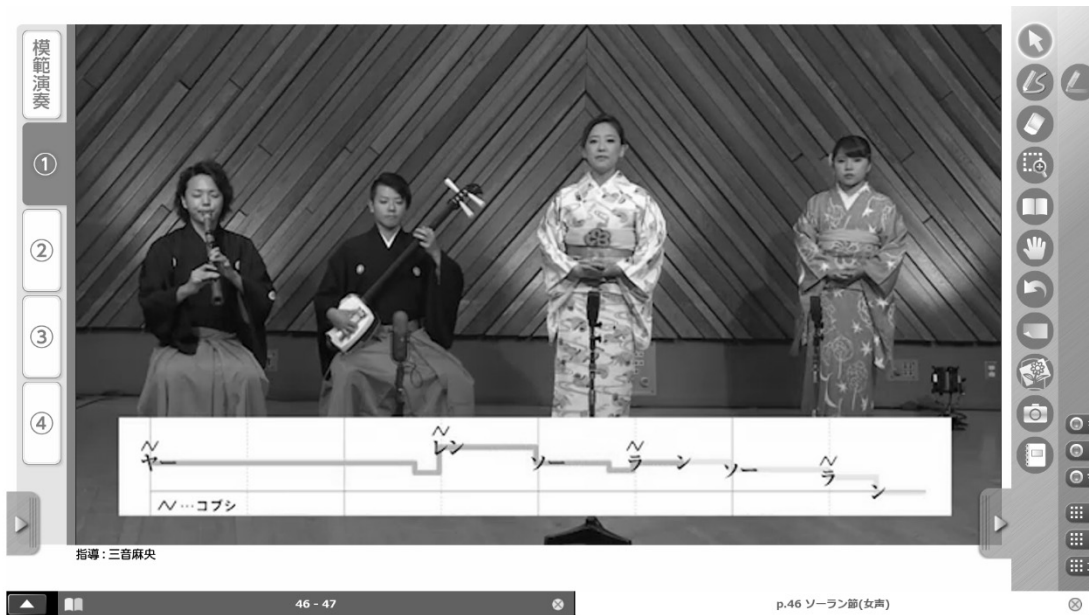


図1 『中学生の音楽1』音楽デジタル教科書 教育芸術社

出典 小原光一・飯沼信義・浦田健次郎『中学生の音楽1』音楽デジタル教科書，教育芸術社，2016年。

その他，小学校第4学年では，《ソーラン節》と《南部牛追い歌》の比較鑑賞を通して，「八木節様式」と「追分様式」の特徴を学習する活動が置かれている。中学校第1学年においても「拍ののったリズム」と「拍のない自由なリズム」として紹介されている。この学習の際，あえて小学校の音楽デジタル教科書（図2）も用い，学びの振り返りを行いたい。



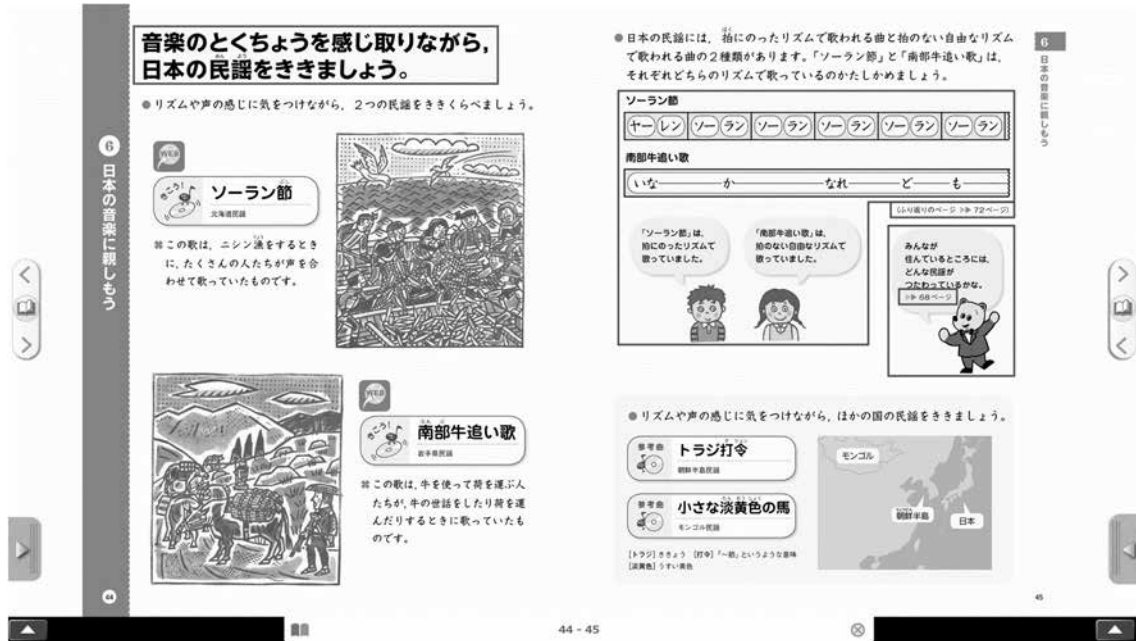


図2 『小学生の音楽4』音楽デジタル教科書 教育芸術社

出典 小原光一・飯沼信義・浦田健次郎『小学生の音楽4』音楽デジタル教科書，教育芸術社，2016年。

(2) 特別支援学校・幼稚園

本稿では小中一貫に主眼を置いてきたが，特別支援教育や幼児教育との関係についても少し整理しておきたい。鳥取大学附属特別支援学校では，萩原由美・仲地ゆい編『新装版おてほんのうたがながれるどうようえほん』(2011)が音楽教科書として使用されている<sup>36</sup>。それには22曲の歌が掲載され，《げんこつやまのたぬきさん》と《ずいずいずっころばし》の2曲のわらべうたが含まれている。日本の民謡は取り扱われていない。他方，文部科学省から特別支援学校知的障害者用の音楽教科書も発行されている。表4は，日本の音楽に該当する箇所を一覧にしたものである。「☆」「☆☆」「☆☆☆」は小学部，「☆☆☆☆」は中学部の教科書である。小学部では12曲のわらべうたが掲載され，中学部において日本の民謡の学習が展開される。

表4 特別支援学校知的障害者用音楽教科書における日本の音楽

学年	題材名	内容	デジタル
☆	なつ <u>の</u> うた みんななかよく どうぶつになって わらべうた	《ほたるこい》 《おちやを のみに》 《くまさん くまさん》 《かくれんぼ》 《おちた おちた》 《なべなべ そこぬけ》	
☆☆	にっぽ <u>ん</u> のしらべに <u>の</u> って  にっぽ <u>ん</u> のうた	《よーいやさ》 《じゅんびたいそううちなわへん》 《うさぎ》	
☆☆☆	たい <u>こ</u> であそ <u>ぼ</u> う わらべうた	わだ <u>い</u> この <u>し</u> ょう <u>か</u> い 《ずい <u>ず</u> い <u>ず</u> っ <u>こ</u> ろ <u>ば</u> し》 《ひら <u>い</u> た <u>ひ</u> ら <u>い</u> た》 《は <u>な</u> い <u>ち</u> も <u>ん</u> め》	

☆☆☆☆	<p>郷土の音楽</p>       <p>輝け囃子 ぶちあわせ太鼓 日本の楽器と音楽</p>	<p>日本各地の民謡と踊り</p> <p>《北海盆歌》 《ソーラン節》 《南部牛追い歌》 《斎太郎節》 《花笠音頭》 《佐渡おけさ》 《会津磐梯山》 《こきりこ節》 《木曾節》 《八木節》 《串本節》 《中国地方の子守歌》 《阿波踊り》 《よさこい節》 《炭坑節》 《黒田節》 《五木の子守歌》 《ていんさぐぬ花》</p> <p>和太鼓 締太鼓 《春の海》 雅楽「越天楽」 《越天楽今様》 歌舞伎「勸進帳」</p>	☆
------	--	---	---

なお、2018（平成30）年の特別支援学校学習指導要領には、下記の内容が新たに示され、我が国や郷土の音楽が重視されている<sup>37</sup>。

我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、楽譜や音源等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方など指導方法について工夫すること。

最後に幼児教育についても触れておきたい。当然のことながら幼児教育には教科書はないが、新幼稚園教育要領の領域「環境」の内容の取扱いにおいて下記の項目が新たに設けられた<sup>38</sup>。

文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。

鳥取大学附属幼稚園においてもわらべうたが実践されており、以下の曲が取り上げられている。

《あぶくだった》《うさぎ》《おしくらまんじゅう》《おちたおちた》《おちゃらか》  
《おてらのおしょうさん》《かくれんぼ》《かごめかごめ》《ずいずいずっころばし》  
《たこたこあがれ》《だるまさんがころんだ》《なべなべそこぬけ》《にらめっこ》  
《はないちもんめ》《ひらいたひらいた》

## おわりに

長野県の信濃町立信濃小中学校では、下記のことが起きた。少々長い引用する<sup>39</sup>。

旧小学校では、地域の伝統的な踊りを、保護者や地域の方々を交えて運動会で踊ってきた。子どもたちへの指導は、地域の方々の協力を得ながら、運動会に向けた体育の授業の中に位置づいていた。地域の人たちにとっては、おらが地域を感じる大切な活動であり、時間であった。それぞれの地域から、「開校後も学校で指導してほしい」という声が上がっていた。

「信濃町に誇りを持つ児童生徒」を育成することは、信濃小中学校の校是である。ただ、旧小学校での取り組みを、すべて取り入れることはできない。年間指導時数や教科指導時数を示しながら、学校教育と社会教育の分担を検討していただいた。旧小学校時代も、本来なら地域で社会教育として子どもたちを指導すべきことを、学校に任されていた部分も少なくない。もちろん、学校で指導した方が効率的だという側面はある。でも、学校任せにしていると、地域の教育力は衰退していく。地域で子どもを育てることは、実は子どもを介して大人同士が繋がるという役割も果たしている。

開校後、地域の伝統的な踊りは地域で指導していただいているが、すべて地域がうまくいっている訳ではない。今まで学校でやってきたことを地域でやるということは大変なことである。

信濃町立信濃小中学校は、小学校5校と中学校1校が統廃合されて開校した。小中一貫教育は、「中1ギャップ」の解消等の利点もある半面、統廃合によって生じる課題もある<sup>40</sup>。本稿では、音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡のカリキュラムを構築した。しかし教科書では、全国の主要な民謡が中心となっており、それぞれの地域に伝承されている郷土の民謡までは網羅されていない。今後は、郷土の民謡の教材開発を行うと同時に、カリキュラムにも盛り込んでいけるようにしたい。

## <謝辞>

本研究は、JSPS 科研費 JP17K04785 の助成を受けたものです。

鈴木慎一郎（鳥取大学 地域学部地域学科人間形成コース）

谷口峻音（鳥取大学 附属小学校）

奥村理恵（鳥取大学 附属中学校）

田村里架（鳥取大学 附属特別支援学校）

舛田和雅子（鳥取大学 附属幼稚園）

<注>

- 1 文部科学省『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』2016年。  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afiedfile/2018/01/19/136974\\_9\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afiedfile/2018/01/19/136974_9_1.pdf)  
(2018年10月25日閲覧)
- 2 同書, pp.37-38。
- 3 同書, pp.39-40。
- 4 文部科学省『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する事例集』2018年。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/ikkan/\\_\\_icsFiles/afiedfile/2018/01/30/1400462-12\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/__icsFiles/afiedfile/2018/01/30/1400462-12_1.pdf)  
(2018年10月25日閲覧)
- 5 小島律子監修『日本伝統音楽の授業をデザインする』廣済堂出版, 2008年。
- 6 同書, p.202。
- 7 小島律子『義務教育9年間の和楽器合奏プログラム』黎明書房, 2015年。
- 8 日本学校音楽教育実践学会編『日本伝統音楽カリキュラムと授業実践：生成の原理による音楽の授業』音楽之友社, 2017年。
- 9 宮崎大学教育文化学部・大学院教育学研究科 小中一貫教育支援研究プロジェクト『平成23年度小中一貫教育支援研究プロジェクト実施報告書』宮崎大学, 2012年。
- 10 宮崎大学教育学部 小中教育一貫コース  
<http://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/corseguide/course01>  
(2018年11月20日閲覧)
- 11 竹井成美・藤本いく代・阪本幹子・菅裕・稲野さやか・岡元雅代・井口朋美・山下さちか・松田美由紀「音楽科における小中一貫教育に関する研究(1):「共通事項」の取り扱いを中心として」『宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要』第20号, 宮崎大学, 2012年, pp.59-69。  
菅裕・藤本いく代・阪本幹子・浦雄一・竹井成美・稲野さやか・岡元雅代・谷口朋美・山下さちか・谷口佳奈「音楽科における小中一貫教育に関する研究(2):「共通事項」の取り扱いを中心として」『宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要』第21号, 宮崎大学, 2013年, pp.107-116。  
菅裕・葛西寛俊・藤本いく代・阪本幹子・浦雄一・竹井成美・金本志秀・岡元雅代・谷口朋美・山下さちか・下川和弥「音楽科における小中一貫教育に関する研究(3):行動目標分析に基づいて」『宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター研究紀要』第22号, 宮崎大学, 2014年, pp.81-99。
- 12 国立教育政策研究所編『小中一貫 [事例編]』国研ライブラリー, 東洋館出版社, 2016年。
- 13 その他, 関連する研究として以下が挙げられる。  
藤田晃之監修, 高槻市立赤大路小学校・富田小学校・第四中学校編著『ゼロからはじめる小中一貫キャリア教育：大阪府高槻市立第四中学校区「ゆめみらい学園」の軌跡』実業之日本社, 2015年。  
西川信廣・牛瀧文宏『学校と教師を変える小中一貫教育：教育政策と授業論の観点から』ナカニシヤ出版, 2015年。  
初田幸隆『小中一貫校をつくる：激動の時代を生き抜く子どもたちのために』宮帯出版社, 2017年。  
耳塚寛明監修・熊坂伸子『検証・小中一貫教育のマネジメント：地域ビジョンと学校評価の活用』第一法規, 2017年。
- 14 「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議『「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議最終まとめ』文部科学省, 2016年。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/110/houkoku/\\_\\_icsFiles/afiedfile/2017/01/27/1380531\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/110/houkoku/__icsFiles/afiedfile/2017/01/27/1380531_001.pdf)  
(2019年1月4日閲覧)  
また, 文部科学省は, 2018(平成30)年12月, デジタル教科書の活用のあり方を検討している有識者会議に, 使用のためのガイドラインを示した。「デジタル教科書, 使用に指針 文科省」朝日新聞大阪本社, 2018年12月19日。
- 15 文部科学省, 前掲書, 2016年, p.53。
- 16 文部科学省平成30年度研究開発学校 新規・延長指定校  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kenkyu/htm/02\\_resch/0203\\_tbl/\\_\\_icsFiles/afiedfile/2018/05/15/1292578.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kenkyu/htm/02_resch/0203_tbl/__icsFiles/afiedfile/2018/05/15/1292578.pdf)  
(2018年10月24日閲覧)
- 17 鳥取県教育委員会 義務教育学校  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/272817.htm>  
(2018年10月24日閲覧)
- 18 文部科学省, 前掲書, 2016年, p.65。
- 19 同書, p.66。
- 20 同書, p.66。
- 21 国立大学法人福井大学教育学部附属義務教育学校 本校の特色  
<http://www.f-edu.u-fukui.ac.jp/~fuzoku-g/about/feature/>  
(2018年11月16日閲覧)
- 22 京都教育大学附属京都小中学校 教育システム

- 
- <http://www.fuzokukyoto.jp/system/consistent.html>  
(2018年11月16日閲覧)
- 23 鳥取市立湖南学園 教育課程  
[http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/konan-e/?action=common\\_download\\_main&upload\\_id=3872](http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/konan-e/?action=common_download_main&upload_id=3872)  
(2018年11月16日閲覧)
- 24 鳥取市立福部未来学園 特色ある教育課程  
[http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/fukubemirai/?action=common\\_download\\_main&upload\\_id=26](http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/fukubemirai/?action=common_download_main&upload_id=26)  
(2018年11月16日閲覧)
- 25 鈴木慎一郎・大野桂・廣富恵美子「小中連携における鑑賞活動のカリキュラム開発の基礎調査：教科書分析を通して」『地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）』第13巻第1号，鳥取大学，2016年，pp.50-53。
- 26 梶田祐子・霜村真由美「『諸民族の音楽』を全学年に取り入れた小中一貫9年間カリキュラムの創造」『学校音楽教育研究』7巻，日本学校音楽教育実践学会，2003年，pp.70-71。
- 27 佐藤学『改訂版 教育の方法』放送大学教育振興会，1999年，p.123。
- 28 同書，p.124。
- 29 同書，p.124。
- 30 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』2018年，pp.39-40。  
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』2018年，p.40。
- 31 田村学編著『カリキュラム・マネジメント入門：「深い学び」の授業デザイン。学びをつなぐ7つのミッション。』東洋館出版社，2017年，p.31。
- 32 加藤明『「聞く」授業の創造による授業改革からカリキュラム・マネジメントによる学校改革へ：アクティブ・ラーニングを越える授業の創造と小中一貫教育の方法』文溪堂，2016年，pp.78-79。
- 33 同書，p.91。
- 34 同書，p.91。
- 35 鈴木慎一郎「小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡の基礎調査：《こきりこ》を事例として」『地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）』第14巻第1号，鳥取大学，2017年，pp.123-136。  
鈴木慎一郎・廣富恵美子「中学校における音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発：《ソーラン節》を通して」『地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）』第14巻第2号，鳥取大学，2017年，pp.123-137。
- 36 萩原由美・仲地ゆい編『新装版おてほんでうたがながれるどうようえほん』おととあそぼうシリーズ33，ポプラ社，2011年。
- 37 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』2018年，p.177。
- 38 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018年，p.211。
- 39 伏木久始・峯村均『山と湖の小さな町の大きな挑戦：信濃町の小中一貫教育の取り組み』学文社，2017年，p.126。
- 40 山本由美・藤本文朗・佐貫浩『「小中一貫」で学校が消える：子どもの発達が危ない』新日本出版社，2016年。